

「学び合い、高め合う子どもの育成」

～主体的・対話的で深い学びの姿を目指して～（国語科・算数科）

はじめに

本校では、「学び合い、高め合う子どもの育成」を主題として校内研究に取り組んでいます。今年度はこれまでの研究成果をいかしつつ、新学習指導要領の重点である主体的・対話的で深い学びの姿を目指して国語科、算数科を切り口に新たな研究をスタートさせました。感染症防止に向けて活動が制限される中、めざす児童の姿を明確にし、全職員で共有しました。また、子ども主体の授業づくりについて視点をもてたことは大きな成果だと考えます。

その取り組みを広く周知できるよう、本リーフレットに足跡をまとめました。本校の校内研究の取り組みについて理解を深めていただけたらと思います。ご高覧のうえご指導・ご助言をいただければ幸いに存じます。

校長 中島 慶太

研究計画

研究主題

「学び合い、高め合う子どもの育成」

～ 主体的・対話的で深い学びの姿を目指して ～

<着地点>

令和4年度	① 主体的・対話的で深い学びを意識した学び合い、高め合う子の姿の明確化。 ② 学び合い、高め合う子の育成をめざす単元・授業作り
令和3年度	① 主体的・対話的で深い学びを意識した学び合い、高め合う子の姿の検証。 ② 学び合い、高め合う子の姿を意識した単元づくりと実践
令和2年度	① 主体的・対話的で深い学びを意識した学び合い、高め合う子の姿を設定。 ② 学び合い、高め合う子の姿を意識した単元づくりガイドラインの作成

①学び合い、高め合う子の姿の明確化と共有化

学び合い、高め合う子の姿を具体にするために主体的・対話的で深い学びの視点を意識して、発達段階によって目指す子ども像を設定し、その実現へ向けて手立てを講じつつ、実践する。協議の都度、見直しをする。

②単元づくりガイドラインの作成

興味・関心を高める導入、学びを働かそうとする姿や学び合い高め合う姿が見られる流れ、学びの実感のもてるまとめ・振り返りなど、協議したことをもとに集約していく。

*ガイドラインはR2年度末までに下中小HPにアップする予定です。

<3年間の重点>「学び合い、高め合う子の育成を目指した授業作り」（国語科・算数科）

① 「学び合い、高め合う子」の姿の明確化を図る。（日々の授業・校内研）

② 「学び合い、高め合う子」の姿を意識した単元・授業作りとその共有化。

・これまでの研究成果（日常生活との関連・問題解決学習・目的意識）を参考に、手立てを模索する。

目指す子ども像

国語	低学年	中学年	高学年	わかば
主体的に学ぶ姿	・進んで学習に取り組む。 ・「わかった」「できた」に喜びを感じることができる。	・学習課題をもてる。 ・見通しをもって課題解決に取り組む。 ・できたことや分かったことをもとに学習の振り返りをする。	・学習課題に目的意識をもてる。 ・見通しをもって粘り強く課題解決に取り組む。 ・自分の学びや変容を自覚する。	・自分で授業の準備ができる
対話的に学ぶ姿	・自分の思いや考えを言葉で表す。 (挿絵、写真、文などから手がかりに考える。) ・伝え合ったり話し合ったりすることでいろいろなことを考え気づく。	・自分の思いや考えを言葉で表す。 ・言葉を手がかりに考える。 ・友だちの考えを聞き、自分の考えを広げる。	・言葉の見方・考え方を働かせて、自分の思いや考えを言葉で表す。 ・作者(筆者)の作品などを手がかりに考える。 ・他者の考えを基に、自分の考えを明確にしたり修正したりする。	・他者を意識して話したり聞いたりすることができる。
深く学ぶ姿	・言葉を増やし、自分の表現に生かそうとする。	・互いの考え方や感じ方の違いをもとに、自分なりの考えをねりなおす。	・言葉の見方・考え方を働かせて学んだことを基にして、自分の考えを作り上げる。 ・一つ一つの知識がつながり、言葉の特徴や使い方が分かり使えるようになる。	・体験的な学習を通し、言葉や表現方法を増やすことができる。

算数	低学年	中学年	高学年	わかば
主体的に学ぶ姿	・進んで学習に取り組む。 ・「わかった」「できた」に喜びを感じることができる。	・既習事項をもとに学習課題をとらえる。 ・見通しをもって課題に取り組む。 ・本時を振り返り、次の学習へつなげる。	・日常と関連させながら学習課題をとらえる。 ・見通しをもって粘り強く課題解決に取り組む。 ・問題解決の過程を振り返り、自分の学びの変容を自覚し、次の学習へつなげる。	・自分で授業の準備ができる
対話的に学ぶ姿	・自分の考えを具体物や図、言葉で表現する。 ・伝え合ったり話し合ったりすることでいろいろなことを考え気づく。	・図や表を使って分かりやすく自分の考えを表現する。	・数の関係性などの見方・考え方を働かせて、筋道を立てて自分の考えを表現する。 ・友だち、先生、これまでの先輩、数学学者が考えた方法を聞いて整理し、自分の考えを広げたり、深めたりする。	・教師の助言を受け入れて学ぼうとする。
深く学ぶ姿	・学んだことを生かして他のものに挑戦しようとする。	・友だちの考えや自分の考えの同じところやちがうところを見つけてくравる。	・数学的な見方・考え方を働かせて、意味理解を深めたり、概念を形成したりする。 ・様々な考えの中から、共通点を見つけたり、より良いものを選んだりする。	・新しい課題にもチャレンジしようとする。

1年生 「たぬきの糸車」「ずうっと、ずっと、大すきだよ」

○ 読んで感じたことを伝え合う単元づくり

声に出して読むだけでなく、言葉・表現・絵などを手がかりに自由に想像を膨らませて読む活動を取り入れることで児童が自分の考えをもち、感じたことを友だちと共有する場を設定した。自分の考えだけではなく友だちの考えにも興味をもって聞き、楽しみながら互いの感想を伝え合うことができた。

1年単元構想図



2年生 「わたしは おねえさん」

○ 伝え合う中で学ぶ授業展開

子どもたちが体験したことがあるような出来事が起こる物語なので、自分と比較しやすい教材である。学習では、挿絵や文章に着目して考えることの意識付けを大切にしたい。友だちの感想や考えを聞く機会を設けていくことで、初めはできなかった子も着目のポイントがわかるようになり文章から考えをもてるようになった。

2年単元構想図



3年生 「モチモチの木」

○ 叙述をもとに「登場人物の成長」を検討するための単元づくり

物語の設定や組み立てを捉えたり、登場人物の気持ちの変化を捉えたりしながら、内容の理解を深めた。その上で、全文を改めて読むような課題として、「登場人物の成長」を検討する学習内容を設定した。物語教材の学習の流れをできるだけ同じようにし、児童が見通しのもてる単元を計画・準備することができた。

3年単元構想図



4年生 「ごんぎつね」

○ 叙述をもとに登場人物の心の変化をとらえるための授業展開

「登場人物の心が大きく変化した場面はどこなのか。」を見つけることを学習課題とし、児童が見通しをもって読みを深めていけるようにした。登場人物になりきり日記を書く学習を通して、より気持ちの変化を捉えることができ、話し合いを通して様々な感じ方があることを理解し、自分の考えを広げていくことができた。

4年単元構想図



わかば級 「日直のスピーチを工夫しよう」

○ 言葉や表現方法を増やそう

わかば級全クラス合同の朝の会で、日直がスピーチをしている。1文で終わる児童が多いため、①「お題」の中から話すことを選ぶ、②3文にする、③グループで練習し他者を意識させる、④友だちの発表から言葉や表現方法を学び自分のスピーチに生かす、という学習を考えた。

わかば単元構想図



5年生 「大造じいさんとガン」(山場がどこか考えよう)

○ 授業をつくる・進める



単元を通して『大造じいさんとガン』の魅力をまとめよう。」という課題を意識し、計画を自分たちで立てて学習を進めた。本時は、「どうやって勉強しますか？」と学び方を子どもたちが考えることや、学習活動でグループの話し合いの有無など子どもの必要感に応じて取り入れることを大切にしながら学習を進めた。それにより子どもたちが見通しをもつことができ、主体的・能動的に取り組み、考えを「話したい」「聞こう」という意欲につながっていた。話し合いを収束するという意識をしっかりともつことが、より子どもが高め合うことにつながる事が明らかになった。

5年単元構想図



6年生 「ならべ方と組み合わせ（重なりに気をつけて組み合わせを考えよう）」

○ グループ活動のもたせ方



体育の授業で行っていた「バスケットボール」と、関連した算数の問題を解くことで課題を身近に感じながら主体的に学習を進めることができた。本時は自分の考えをもてた後に、同じ考えの友達と交流、全体で考え方の確認、考えを聞いて興味を抱いた方法で友達と一緒に練習問題を解くという流れで行った。「やってみたい」と興味を抱いた方法で友達と練習問題を解くことで、広げた考えを深めることができた。2問目以降の練習問題は、個人で解くなどの工夫をすることで、より理解が深まるのではないかとということが分かった。グループ活動のもたせ方について全職員で共有することができた。

6年単元構想図



校内研修

○「理論研究」 横浜国立大学 永池啓子先生

「跳び箱は、跳んでみないとわからない。」先生が研修の冒頭で述べられた言葉である。日々授業を行っている私たちの心をぐっとつかむ言葉であった。単元の見通しをしっかりとめさせること、ミッションをはっきりさせることなど具体的なご指導をいただいた。また、国語科と算数科の授業を大型スクリーンで視聴しながら、これから求められる好奇心・探求心、対話する力・使いこなす力・価値を見つけ出す感性と人間関係力を考える「ワークショップ」も行った。さらに、先生ご自身の実践もまじえた講話により、本校の研究テーマの具現化に向けたヒントとなる内容を全職員で共有することができた。



これから

下中小の国語科と算数科における「主体的・対話的で深い学び」の姿をもとにして、低・中・高学年・わかば級に応じた目指す子ども像の具体を設定することができた。そして、それをもとにしながら各学年で単元構想を作成し、各ブロックで共有した。目指す子ども像の具体を念頭に置いたことで、実際の授業で対話的に学ぶ子どもの姿が見られるなどの成果があった。ただ、新型コロナウイルスの影響で、各学年で作成した単元構想をもとにした研究授業・協議は、5・6年生の2学級の実施となった。このような中でも、日常生活と関連づけて教材に関心をもって向き合ったり、学び方を子どもたちが作り・進めて見通しをもったりするのは、「主体的・対話的で深い学び」の姿を目指す上で大切であると共有することができた。

本年度立てた仮説・手立ては、今後検証し、加除修正していくこととなる。日々の授業や子ども主体の授業作りの視点も大切に、さらに研究を進めていきたい。

終わりに

今年度は、研究テーマの副題や対象教科を変え新しい研究のスタートの年でもありました。しかし、新型コロナウイルスの影響で様々な制限があり例年の様に全員が授業提案を行うことができませんでした。そこで、ブロックごとにめざす子ども像を設定したり、単元ガイドラインを作成したりして、研究の素地づくりに力を入れてきました。来年度は授業での検証を繰り返し「主体的・対話的で深い学び」に向かってさらに研究を進めていきたいと思っています。

なお、本校の研究推進に懇切丁寧にご指導くださいました横浜国立大学人間学部 永池啓子先生、県西教育事務所 妹尾尚悟指導主事、研究に関わってくださった関係機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

教頭 栗原 光